

# 国 語

指示があるまで、このページをよく読んで待ちなさい。指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。

## I 受験に際しての注意

- 1 問題用紙は一ページ（表紙を除く）から十五ページまでである。
- 2 問題の内容についての質問には、いつさい応じない。それ以外のことがらについて尋ねたことがあれば、手をあげて監督者に聞くこと。
- 3 監督者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐやめること。
- 4 解答用紙が折れ曲がったり、破れたり、汚れたりした場合には、手をあげて監督者に申し出ること。

## II 解答記入上の注意

- 1 すべてマーク方式で解答を記入すること。
- 2 マークは必ずHBの黒鉛筆を使用して記入すること。ボールペン、万年筆、サインペン等を用いてはいけない。
- 3 答えは、すべて各問題の指示にしたがって解答欄にマークすること。
- 4 一度マークしたものを訂正するときは、プラスチック消しゴムで完全に消してからマークしなおすこと。消して出たカスはきれいに払っておくこと。
- 5 次の場合は、いずれも誤答となるから特に注意すること。
  - (1) マークの仕方が悪かった場合。（特にマーク欄が塗りつぶされていなかったり、外側に少しでもはみ出した場合）
  - (2) 問題が要求している以上に余分な答えをマークした場合。
  - (3) マークすべきところ以外に印をつけたり、汚したりした場合。特に枠内は絶対に汚さないこと。
  - (4) 訂正の場合の消し方が不十分な場合。

## III 氏名等の記入上の注意

- 1 問題用紙と解答用紙の両方の所定欄に、漢字で氏名を、算用数字で受験番号をそれぞれ記入すること。
- 2 解答用紙の左側にある受験番号をマークすること。

氏 名

受験番号

一 次の各問いに答えなさい。

問一 漢字の読みの間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 息吹(いぶき)
- ② 時雨(じう)
- ③ 砂利(じやり)
- ④ 数珠(じゆず)

問二 送り仮名の間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 授かる
- ② 耕す
- ③ 訪る
- ④ 率いる

問三 「進化のカテイを考える」の傍線部の漢字として正しいものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 家庭
- ② 仮定
- ③ 課程
- ④ 過程

問四 「考えなく他人の意見に賛同すること」の意味となる四字熟語を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 付和雷同
- ② 大同小異
- ③ 傍目八目
- ④ 公平無私

問五 に同じ漢字が入るものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 右 左
- ② 載 遇
- ③ 拳 馬
- ④ 得

問六 対義語の組み合わせとして正しくないものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 延長―短縮
- ② 進化―退化
- ③ 特別―普通
- ④ 形式―方法

問七 「人のうわさも( )」の( )に入る言葉を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 十五日
- ② 三十五日
- ③ 七十五日
- ④ 九十五日

問八 副詞の呼応が正しく用いられているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① もし、失敗するとあきらめる。
- ② よもや他人には話すまい。
- ③ 私は決して嘘をつける。
- ④ おそらく彼が犯人だ。

問九 「雇」の部首を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① おおざと
- ② のぶん
- ③ まだれ
- ④ ふるとり

問十 「無用な心配をすること」を意味する故事成語を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 杜撰
- ② 蛇足
- ③ 杞憂
- ④ 矛盾

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

誰も見たり読んだりしないメディアなら、存在価値を失う。特にテレビや新聞などの商業メディアなら、一人でも多くの人に見てほしいし読んでほしいと考えることは当然だ。

① たとえば今朝、あなたはコンビニの前で、とてもかわいい子ネコを見たとする。あなたはそれを誰かに伝える。でもそのとき、子ネコがどんな毛色で、どのくらい大ききで、どのように啼ないていて、そしてどのように動いていたかを、すべて伝えることはしないはずだ。自分がいちばん印象に残った特徴を伝える。あるいは、自分がいちばん伝えたいことを伝える。それは当たり前のこと。

② メディアも同じ。すべてを伝えることはできない。アフリカについて伝えるとき、すべての地域の天気や動物の種類や生態、サバンナや都市部に暮らす人たちがすべての名前や顔や生活を伝えることはできない。すべての国の政治や経済を、言葉や映像にすることは不可能だ。だって際限がない。

③ だからメディアは要約する。あるいは視点を選ぶ。そしてこのときに、メディアはまず、「わかりやすさ」を基準に情報を要約し、視点を選ぶ。

④ 要約とは何か。要するに四捨五入だ。0.5以上は切り上げる。0.5未満は切り下げる。ただしこのとき、その数値の判断は伝える側がする。たとえば子ネコの鳴き声についての情報が0.2だとあなたが思ったなら、あなたはそれを誰かに伝えるときに切り捨てる。A その鳴き声がとても愛らしいとあなたがそのときに思ったなら、鳴き声の情報は0.8になる。ならば切り上げて1.0。伝えるべき要素の一つになる。補足するが、人が誰かに情報を伝えるとき、<sup>①</sup> いちいち実際に数字を当てはめたりしているわけではない。もつと直感的にこの作業を行っている。数字はあくまでも比喩だ。でもメカニズムは四捨五入とほぼ近いと思ってくれていい。

ここまでは、あなたが誰かに今朝見た子ネコについて伝える話。<sup>②</sup> この原則はメディアも同じ。四捨五入を常に行っている。そしてこのとき、四捨五入をするための基準として、メディアは「わかりやすさ」をとっても重要視する。

B 「わかりやすさ」は大切だ。同じ情報量と質ならば、「わかりづらい」よりも「わかりやすい」ほうが良いことは当たり前。どちらを選ぶかと訊かれたら、多くの人はわかりやすいほうを選ぶはずだ。特にテレビや新聞などの商業メディアの場合、多くの人に受け

入れてもらえなくなることは死活問題だ。業績が悪化する。会社が傾く。だから「わかりやすさ」を最優先する。僕もテレビ・ディレクターの時代、編集を終えた作品に対して、プロデューサーから「わかりづらいから再編集しろ」とよく指示された。「これ以上は無理ですよ」などと反論しても、「このままでは絶対に放送できない」などと断言される。その後にこう言われたことを覚えている。

「テレビは映画とは違うんだ。わかりづらかったらすぐにチャンネルを替えられてしまう。そしておまえの編集はわかりづらい。余計な情報が多すぎる。もっと整理しろ。話はそれからだ」

④ ある意味でこのプロデューサーは正しい。映画の場合は、観客は料金を払って席に座る。多少わかりづらくても席を立つことはめつたにない。だってお金がもつたいたい。それに次の予定まで時間が空いてしまう。一人だけ立ち上がって出てゆくのも気が引ける。だからできるだけ最後まで観つづけようとする（ただしその映画が最後までわかりづらければ、その監督の次の作品を観るために劇場に足を運ぶ人の数は減少するだろう）。

でもテレビの場合は、リモコンを手に入れば、一瞬でチャンネルを替えることができる。観る前にお金を払っているわけじゃないから、わかりづらければすぐにチャンネルを替えられてしまう。

テレビだけではない。新聞だって選択できる。何度も読み返さないと意味を把握できない記事ばかりが載っている新聞ならば、販売店に電話して他の新聞に替えることができる。ならば他紙より少しでもわかりやすい記事を書け。そうなってしまうことは当然だ。

だから、「わかりやすさ」をメディアが目標とすることは間違いない。もう一度書くけれど、あなただって誰かに情報を伝えるときは、この「わかりやすさ」への加工を無意識にやっているのだ。

あなたはコンビニの前で見た子ネコについて誰かに伝えるとき、その啼き声についての情報の価値を0.8にした。でもあなたではない別の誰かだったら、鳴き声についてはあまり関心を示さないかもしれない。その誰かはむしろ、子ネコの愛らしい動きを最優先して伝えるかもしれない。

**C** 視点は人によって違う。それはメディアも同じこと。現場にいるのは結局のところ、記者やカメラマンやディレクターだ。彼らは皆、自分の視点で現場から情報を切り取る。そしてそれをわかりやすく整理する。その視点はひとりひとり違う。もしも現場にあなたがいれば、その記者やカメラマンやディレクターとは違う視点で情報を切り取るはずだし、違う価値観でその情報を整理するだろう。つまりメディアから伝えられる情報は、その記者やカメラマンやディレクターというフィルターによってろ過された情報なのだ。それは人によって違う。まずはそれを頭に入れてほしい。

ここまでではあなたもメディアも同じ。でもここからは少し違う。メディアの要約は、「わかりやすさ」だけを最優先するわけではない。

特にテレビや新聞など商業メディアの場合、情報をわかりやすく要約するとき、より「刺激的」で多くの人が好む情報に加工する場合がある。

たとえば今ならば、中国の戦闘機が日本の領空すれすれを飛んでいたとき、一部（あるいは多く）のメディアはこれを「ここまできた中国の挑発行為！」とか、「ついに危機的状況！」などと表現する可能性が高い。なぜならばそのほうが「刺激的」で、多くの人の関心を惹くからだ。

つまりこのほうが売れる。

かつてこの国で戦争が起きたとき、新聞は結局、戦争を推進する方向に舵を転換した。その理由は（前にも書いたように）そのほうが売れるからだ。

この場合にメディアの四捨五入は、必ずしも「0.5以上は切り上げて0.5未満は切り下げる」との法則どおりではない。現場では0.1と感じたとしても、これは刺激的で多くの人が興味を持つと判断したならば、これを1.0に切り上げてしまう。逆にこれはとても大事なことだと思っただとしても、地味でわかりづらいから多くの人は興味を持たないだろうと判断されたとき、その0.8は切り下げられて、なかったことにされてしまう。

情報は複雑だ。とても多面的で多重的だ。そのすべてを伝えることはできない。だからメディアは情報を加工する。その場合の基本原理は、まずは「わかりやすさ」だ。ところが一人でも多くの人が見たり読んだりすることが売り上げにつながる商業メディアの場合、この加工の際に、より「<sup>⑤</sup>刺激的」な方向に強調する傾向がある。

しかも時おりメディアは間違える。要するに誤報だ。1991年に起きた湾岸戦争の際に、真っ黒な重油で全身をおおわれた水鳥が黒い波打ち際に立っている映像が、世界中で大きな話題になった。このときはフセイン政権率いるイラク軍がクウェートの石油施設を爆撃したことで、深刻な環境破壊問題が生じているとメディアは伝え、多くの人はイラク軍のこの蛮行に怒り、攻撃もやむなしと考えた。

こうして悪いイラクを征伐することを目的にした湾岸戦争は **X** され、アメリカなど多くの国がこの戦争に参加してイラクを攻撃した。でもその後、重油が海に流出した理由は、イラクではなくアメリカの爆撃が原因であることが明らかになった。つまりアメリカ政府の情報操作にメディアが使われたのだ。

このときほとんどのメディアは、この写真が米軍の爆撃機の攻撃によって流出した油にまみれた水鳥なのだとは知らなかった。つまり誤報だ。でもその結果として戦争が始まった。

戦争だけではない。メディアが正しくない情報を伝えたことで社会が間違った判断をする場合は、世界にいくらでもある。

その情報の何が大切なのか。何を優先的に伝えるべきなのか。メディアの仕事は単純に「伝える」だけではなく、「何を伝えるかを考

える」ことも重要だ。でも同時にこのとき、メディアは多くの人が好む情報を優先する。さらに情報を加工する。その結果として、**Z**。現実とは違う方向に形成されてしまう。世界観が歪むから、正しい判断ができなくなる。正しい判断ができなくなった多くの人は、「中国が今日明日にも侵略してくる」などと危機感を抱き、「こうなったら戦争をするしかない」とか「自衛のために戦え」などと、さらに刺激的な情報を求めるようになる。別に戦争だけではない。もっと些細なことでも、やっぱり世界観が歪んだり、判断にミスするような事態は困る。

せつかくこの世界に生まれてきたのだ。だから世界をちゃんと知りたい。間違った世界を知りたくない。正しい世界を知りたい。いろんな人の喜びや悲しみ、絶望や希望、怒りや嘆き、優しさや豊かさ。それらを僕はちゃんと知りたい。正確に知らなければ、自分ができていることを考えることもできなくなる。

多くの人の世界観がメディアによって誘導される。これをプロパガンダという。日本語にすれば **Y**。

プロパガンダという言葉が悪い意味に使う人は少なくないけれど、でも **Y** と考えれば、これはメディアの本質なのだと気づくはずだ。テレビのCMはその商品のプロパガンダだ。ピカソの「ゲルニカ」(ナチスによって空爆を受けたスペイン北部バスク州のゲルニカを主題に描いた絵画) だって、スペイン内乱についてのピカソのプロパガンダだし、ベートーヴェンの「交響曲第九番」(シラーの詩「歓喜に寄す」に感動し作った曲) は、人類や信仰についてのベートーヴェンのプロパガンダだ。放送されるドラマやドキュメンタリーだって、結局はそれを作った人のプロパガンダということになる。

もちろんあなたが今読んでいるこの本だって、メディアやその影響について考える森達也のプロパガンダだ。

だからプロパガンダであることを問題視しても意味はない。大切なことは、そのプロパガンダが、人々を正しい方向に導くのか、それとも間違った方向に誘うかの判断だ。

この判断をするためには、メディアの特性を知らなければいけない。人々はどのようにメディアから影響を受けるのか、そしてメディアはなぜそのように情報を選択するのか、そうした知識も必要になる。メディアの歴史を知ること重要だ。

(森達也『たったひとつの「しんじつ 真実」なんてない』)

問一 本文中には「別にメディアだけではない。あなただって誰かに何かを伝えるとき、無意識に情報を要約している。」という一文が抜けている。空欄へ①～④より選び、番号をマークしなさい。

問二 

A
---

C
---

 に当てはまるものを次より選び、それぞれ番号をマークしなさい。

- ① しかも
- ② もちろん
- ③ また
- ④ たとえば
- ⑤ でも
- ⑥ つまり

問三 

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

③
---

②
---

④
---

①
---

 <

問六 「刺激的」な方向に強調する傾向がある理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 「刺激的」な情報は、多くの人々が興味を持ち、結果的には売上につながるから。
- ② どの国でも戦争を推進するような「刺激的」な情報は求められているから。
- ③ 情報は多面的で複雑だから、「刺激的」にすることばかりやすくなるから。
- ④ 世の中の情報を「刺激的」に強調することがメディアの役割であるから。

問七 X、Y に当てはまる熟語を次より選び、それぞれ番号をマークしなさい。

- |       |      |       |
|-------|------|-------|
| ① 感覚  | ② 洗脳 | ③ 意識化 |
| ④ 正当化 | ⑤ 宣伝 | ⑥ 具体化 |

問八 Z に当てはまる文章として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 情報が歪み形を失う。
- ② 情報を発信した人の世界観が歪む。
- ③ 情報を与えられた人の世界観が歪む。
- ④ 情報があるべき方向を見失う。

問九 筆者の主張と合致する最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 世の中に発信されている情報は全てプロパガンダであるから、その言葉を悪い意味にとらえることはしない方がいい。
- ② メディアは情報を正しく伝えるものではなく、いかに「刺激的」にするかのみを考えている。
- ③ 世界中の戦争はメディアの力によって引き起こされたものであるから、情報が正しいものであるかを判断しなければならぬ。
- ④ メディアの特性を理解し、その情報が人々を正しい方向に導くものか、またはその逆であるかを判断する必要がある。



三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

リュウの部屋には一枚の紙が貼ってある。今年の一月、学校で書き初めをしたときの作品だった。自分のいちばん好きな言葉を書きなさい、と先生に言われて、迷わず「正義」と書いた。画数の多い文字を選んでしまったので、お習字としての出来映えはたいしたことがなかったが、先生も友だちも、リュウらしくていい、とほめてくれた。

実際、リュウは正義感のかたまりのような少年だった。ずるいことやひきょうなことが大嫌いで、相手のほうが絶対に間違っていると思うときには、たとえ上級生でもひるまなかった。いつも思っていた。

お母さんが見ている――。

亡くなったお母さんが、ずっと見守ってくれている。だから強くなれる。お母さんに対して恥ずかしいことは絶対にしたくない、と誓っていた。

いいことをした、と自分で思うときには、空を見上げてお母さんに訊く。

今日のぼく、どうだった――？

自分でもちよつとよくなかったかな、と思うときには、自信なさそうに空を見上げる。

今日のぼく、やっぱりだめだよね――。

③ そんなリュウを、お父さんはいつも応援してくれていた。

「リュウ、おまえのいちばんいいところは、まっすぐで素直なところだよ」

勉強はもうちよつとがんばってほしいけどな、と笑いながら付け加えたあと――お酒に酔っているときには、さらにもう一言、つづけるのだ。

④ 「これからいろいろ大変なこともあるかもしれないけど、おまえは間違っていないだから、ずっとまっすぐに、正義の少年でいろよ」

お父さんは知っているのだ。リュウのような正義感に満ちあふれた少年がいる一方で、そんな少年をうとましく思い、ねたんでしまう少年もいることを。そして、マンガやアニメならともかく、現実の教室には「正義」を冷ややかに笑う子どもたちのほうがずっと多いんだ、ということも。

⑤ 心配は当たった。五年生になって教室の雰囲気が変わった。

クラス替えをしたせいだけではなく、四年生までのように男子と女子が入り交じって遊ぶことがなくなった。先生に問題を出されても、はいはいはーいっ、と手を挙げる子が減った。委員や当番をみんなやりたがらなくなり、立候補する子は男子も女子も「いい子ぶってる」「出しゃばり」と陰口を言われるようになった。

そして、いじめが始まった。

最初の標的は、ニシムラクくんという子だった。

五月のことだ。授業中、おながが痛くなったニシムラクくんはトイレに行った。それだけのことで次の休憩時間に「ニシムラ、くさい」とからかわれた。最初は冗談半分で、からかうのもニシムラクくんと仲のいいグループだけだったが、ニシムラクくんがイヤがって「やめろよお」と言う口調を誰かが物真似すると、みんな面白がって、いつのまにか男子のほとんど全員がニシムラクくんのことを「くさい」と言うようになった。

ニシムラクくんとしゃべると、においがうつって自分までくさくなる。

ニシムラクくんの持ち物やさわったものには、くさいにおいが染みついている。

ニシムラクくんの歩いたあととはくさいから、下敷きであおいで、においを消さなければいけない。

ニシムラクくとすれ違うときには、鼻をつまんで息を止めなければ、くさいにおいのするばい菌が入ってくる。

ニシムラクくんのさわった物に手が触れたら、十数えるまでに誰かにタッチしないと、体が腐ってしまう。

六月に入ると、女子もニシムラクくんのことを避けるようになった。給食当番のニシムラクくんが配ったパンを、女子の誰かがティッシュでくるんでゴミ箱に捨てた。意地悪でそうしたのはなく、ほんとうに気持ち悪くて吐きそうだったから、とあとでその子は言った。

教室の出入り口でニシムラクくとぶつかりそうになった別の女子は、悲鳴をあげてニシムラクくんから逃げて、席に戻って泣きだした。だって怖かったんだもん、とその子は言った。

リュウは、はじめには加わらなかつた。ニシムラクくんをからかう連中に何度も「やめろよ、そんなの」と言ったし、いままでと変わらず、ニシムラクくんにふつうどおりに話しかけた。

だって、そんなのあたりまえだよ、はじめなんてサイテーのひきょう者のやることなんだから——。

空を見上げて、お母さんに言った。

ニシムラクくんにも「もつと本気で怒らないから、みんなもやめないんだ」と言った。

「殴つたりしないでいいから、本気で怒ってみろよ」

ぼく、間違つてないよね——？

空の上のお母さんは、顔を見せてくれるわけではない。それでも、広くて青い空ぜんぶがお母さんなんだとリュウは思う。空をずっと見上げていると、にっこりと微笑んでくれたり、まあっ、と軽くにらんだりするのが、わかるようになる。ほんとうだ。その証拠に、お母さんが笑ってくれてお母さんの風はリュウの頬をやわらかくくすぐるし、お母さんに叱られてお母さんの肌には、風が肌にチクチクする。

六月の終わり頃、みんなの中心になってニシムラクくんをいじめていたウエダが、ひどいことを思いついた。休憩時間にニシムラクくんがトイレに行くのを追いかけて、ニシムラクくんがおしっこをしているうちに教室に駆け戻り、「ニシムラ、ただいまシヨンペン中でーす、もつとくさくなりませう」と大声で言つて、みんなに窓を開けさせ、鼻をつまませて、ニシムラクくんを迎えるのだ。それに気づいたニシムラクくんは、次の日は休憩時間になつてもトイレに行かなかつた。おしっこをずっとがまんして、がまんして、がまんして、がまんして

……六時間目の社会の授業中、ついに、席にいたまま、漏らしてしまった。(A)  
リュウがウエダをグラウンドに呼び出して決闘したのは、その日の放課後のことだ。  
今日のうちにいじめをやめさせないと、明日はもっとひどいことになる。

そうだよね、お母さん——。(B)

空を見上げ、お母さんごめんね、と心の中でつぶやいてから、ウエダにかかつていった。体はウエダのほうが大きかったが、リュウにはスピードがあった。怒りがあった。なにより、正義があった。たちまちウエダを組み伏せて、「二度とニシムラをいじめないって言え！」と迫った。まわりを取り囲んだ男子にも「ニシムラをいじめたら、俺がゆるさないぞ！」と言ってやった。その場にはクラス男子の半分ほどが集まっていたが、誰も言い返さなかった。(C)

ウエダはしばらく「俺だけじゃないだろ、みんなやってたんだから」と言い訳していたが、リュウが **X** 乗りになつて拳をふりかざすと、「ごめん！ すみません！」と半べそをかいて謝った。他の連中も、口々に「リュウちゃん、ごめん」「もうやめるから」「絶対にしないから」といまままでのことを詫言じた。

リュウもそれでやつと拳を下ろし、ウエダを解放してやった。

「今度ニシムラをいじめたら、もつとぶん殴つてやるからな。わかったな！」

ウエダはおむけに倒れたまま、ふてくされたようにそっぽを向いていた。返事はなかったが、さっきのおびえ具合だと、もうだいたいようぶだろう。(D)

リュウは地面に置いてあったランドセルを背負つて歩きだした。胸を張つて歩いた。空を見上げて、やったよお母さん、と笑った。

風が吹いた。あれ？ とリュウの笑顔はこわばった。気持ちよく頬を撫でていくはずの風が、なにかじつとりと重い。汗をかいているせいだろうか。それとも、明日から天気がくずれるという兆しなのだろうか。

まあいいや、と歩いていたら、背中からウエダの声が聞こえた。

「カッコつけるな！」

なんだと、と怒つて振り向いたが、駆け戻るには億劫な距離が空いていた。ウエダもそれをわかつていて——遠ざかるのを待つて、怒鳴つたのかもしれない。

ウエダのまわりには、決闘に立ち会つた連中が全員残つていた。さっきはリュウの剣幕におされて、ごめん、もうやめるから、と繰り返すだけだったのに、いまこつちを見ている目つきはウエダと同じように敵意にあふれていた。

風がまた吹く。やはり、じつとりと重い。頬にねばりつくような、いまままで感じたことのない風だった。

問一

① リユウらしくていいとあるが、リユウらしさを説明したものととして最も不適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ずるをしたり、ひきょうなことをする人間はたとえ年上でも許すことができない。
- ② 自分は間違ったことを絶対にしないと、お母さんに誓っている。
- ③ 男子とも女子とも分け隔てなく誰とでも仲良くでき、協調性に富んでいる。
- ④ 正義を一番大切にして、相手が間違っていると思ったときは全力で戦う。

問二

② 正義感のかたまりのような少年だったに表れている表現技法の名称として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 直喩
- ② 暗喩
- ③ 擬人法
- ④ 倒置法

問三

③ そんなリユウとあるが、リユウの特徴を示したものととして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 正義感にあふれ、どんなときでもクラスの先頭に立ってリーダーシップをとって、みんなを導いていくような存在。
- ② いつでも先生にほめられるように、何事にも全力で取り組み、先生からも同級生からも頼られる存在。
- ③ いつでも判断の基準にお母さんの存在があり、亡くなったお母さんに恥ずかしくないようにすることが第一と考えている。
- ④ お父さんとお母さんの存在が大きく、両親に恥じない行動をしようと考え、実行することを目標としている。

問四

④ いろいろ大変なことはどのようなことを指すか、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 正論がいつでも正しいこととはならない場合があり、リユウがストレスを抱えることが多くなるということ。
- ② まっすぐなリユウの長所が周囲には短所であるように受け取られ、リユウに嫉妬の目が向けられるようになるということ。
- ③ リユウが成長していく中で、正義感だけで解決できる問題ばかりではなくなつたときに、心が折れるということ。
- ④ 現実世界では悪が横行し、正義が必ずしも正義にならず、リユウの正義が守られなくなることがあるということ。

問五 心配は当たったとあるが、この「心配」は誰がしたもののか、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① お父さん      ② お母さん      ③ リユウ      ④ 先生

問六 悲鳴をあげてニシムラクンから逃げて、席に戻って泣きだしたとあるが、その理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ニシムラクンに対するマイナスのイメージがニシムラクン像を作り出し、実体のないものに恐怖を抱いていたから。  
② みんながニシムラクンを恐れていたので、直接の関わりがなくても、ニシムラクンを恐れる気持ちになっただから。  
③ ニシムラクンとぶつかってしまえば、今度は自分がいじめの標的になると思い込んで、恐怖を感じていたから。  
④ いじめに加わらなくても、ニシムラクンを避けていることは事実だったので、ニシムラクンからの仕返しを恐れたから。

問七 空の上のお母さんは、顔を見せられるわけではないとあるが、リユウがお母さんを感じる手段として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 気温      ② 雲      ③ 空色      ④ 風

問八 本文中には次の文章が抜けている箇所がある。(A)と(D)のどの箇所の後ろに補うことが適当か。最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

「ケンカはよくない。暴力はよくない。だが、いじめはもっとよくない。正義のためのケンカなら、お母さんもきつと許してくれるし、負けるわけにはいかない。」

- ① A      ② B      ③ C      ④ D

問九  X に入るものと同じ漢字を用いて完成する慣用句として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ( ) 耳東風      ② ( ) 口牛後  
③ ( ) 頭狗肉      ④ ( ) 突猛進

問十 もうだいじょうぶだろうの意味を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分の正義が守られたことによる安堵
- ② 今後ニシムラクくんに対するいじめはなくなるといふ確信
- ③ たった一人でウエダ達に勝った達成感
- ④ 大人に頼らずクラスの問題を解決したという自負

問十一 胸を張って歩いたについて、この時のリュウの心情として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① クラス内にあつたいじめを、自分だけの力で解決できたという晴れがましい気持ち。
- ② 誰も助けなかったニシムラクくんに対して、救いの手を差し伸べたことに対して、大声で自慢したいような気持ち。
- ③ その他多くのクラスメイトに流されることなく、自分の信念を貫いたことに対する誇らしい気持ち。
- ④ クラスで一番体の大きなウエダと決闘し、自分のためではなく人のために戦い、勝利に酔いしれる気持ち。

問十二 気持ちよく頬を撫でていくはずの風があるとあるが「気持ちよく頬を撫でていくはず」とリュウが考えた理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① お母さんに対して恥ずかしいことは何もしておらず、かえって自慢できるような行動をとっていたので、お母さんにほめてもらえるだろうと思ったから。
- ② 空のお母さんはいつでも真実をリュウに教えてくれるので、自分の正義のために戦ったリュウをほめてくれると思ったから。
- ③ 暴力という手段を使ったが、正義のための戦いだったので、お母さんもきつと多めに見てくれるだろうと思ったから。
- ④ 五月晴れの午後だったので、爽やかな風となってお母さんがリュウの前に表れてくれると期待したから。

問十三 億劫の類義語としてふさわしくないものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 不精
- ② 厄介
- ③ 退屈
- ④ 軽率

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

伊与入道は、をさなくより絵をよく書き侍りけり。父うけぬことになん思へりけり。むげに幼少の時、父の家の中門の廊の壁に、かは<sup>①</sup>らけのわれにて、不動の立ち給へるを書きたりけるを、客人たれとかやたしかに聞きしを忘れにけり、これを見て、「たが書きて候ふにか」と、おどろきたるけしきにて問ひければ、あるじうちわらひて、「これはまことしきもの<sup>③</sup>の書きたるには候はず。愚息の小童が書きて候ふ<sup>④</sup>と言はれければ、いよいよ尋ねて、「しかるべき天骨とはこれ<sup>\*</sup>を申し候ふぞ。このこと制し給ふことあるまじく候ふ<sup>⑤</sup>」となん言ひける。げにもよく絵見知りたる人なるべし。

〔古今著聞集〕

※かはらけ…素焼きの陶器

※天骨……才能

問一 むげに幼少の時<sup>①</sup> まことしきものの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ次より選び、番号をマークしなさい。

むげに幼少の時<sup>①</sup>

- ① 愛らしく幼かった頃
- ② たいそう幼かった頃
- ③ すこし幼かった頃
- ④ 未熟で幼かった頃

まことしきもの<sup>③</sup>

- ① 新しく世に出た者
- ② いかにも本物らしい者
- ③ ちゃんとした者
- ④ 身分の高い者

問二 おどろきたるけしきとあるが、なぜ驚いたのか。その理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 壁に描かれた不動の絵が素晴らしいものだったから。
- ② 自分の描いたはずの絵が家の壁に飾られていたから。
- ③ 幼いころに描いた絵を思わぬ場所で見つけたから。
- ④ 飾ってある絵が以前見たものとそっくりだったから。

問三 言はれけれの主語を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 客人
- ② あるじ
- ③ 父
- ④ 不動

問四 このこととは何か。次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 絵を客に見せること
- ② 絵を壁に飾ること
- ③ 絵をほめること
- ④ 絵を描くこと

問五 本文の内容と合致するものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 伊与入道は幼いころから持てる絵の才能を発揮していた。
- ② 伊与入道の父は息子が絵を描くことに対して賛成していた。
- ③ 客人は伊与入道の才能を知って絵を見物に訪れていた。
- ④ 客人は絵のあまりのひどさに伊与入道を叱ることになった。

問六 「古今著聞集」と同じジャンルの作品を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 十訓抄
- ② 伊勢物語
- ③ 枕草子
- ④ 古事記